① 聖路加幼稚園 1948(S23)～

聖路加幼稚園の母体は、聖路加国際病院(現築地)付属高等看護婦学校です。同校は、1927(S2)年に聖路加女子専門学校となり、稲村ケ崎海沿いに看護婦寮を作りました。

看護婦寮の土地は、16(T5)年以前から新渡戸稲造の別荘地(稲村ヶ崎 3-5)で、津田梅子が滞在したり、また近くに別荘を構えた有島生馬の娘暁子も別荘を訪れています。

この看護婦寮が、47(S22)年聖路加幼稚園を開園したのです。幼稚園は、当初 12,3 人の保育から始まりましたが、2 年後には病院の経営方針が変わり幼稚園は続けることが出来なくなりました。

その時、7 人の母親が立ち上がり、新たな土地(稲村ケ崎 4-2-5)を購入し、園舎の建設に向け活動を始めます。父母たちは知恵を出し合い、資金集めにリヤカー

を引いて廃品回収をしたり、手作りバザーを開いたりしてお金を集めたのです。

父母たちの努力を見ていた、地元の工務店は園舎の建設費をわずかな月賦で引き受け、協力を惜しまなかったと云われています。

1948(S23)年、聖路加幼稚園は聖路加女子専門学校から離れ、名称のみを引継ぎ、自主運営の道を経て、新たな経営者河井忠治、多喜子夫妻に託され、現在は園長を河井怜子が務めています。

河井多喜子は 77(S52)年、安田生命社会事業団による「障害児教育報告会」で神奈川小児療育センター元所長佐々木正美と共に、幼児教育の立場から、発達障がい児、知的障がい児と共に過ごす時間をお互いの宝として、統合教育に力を入れている旨を発表します。

今も、稲村ケ崎公園にみんなでお散歩に来る園児たちは、土手を上り下りしながら、幼い園児、不自由な仲間の手を引いたり、危ない！と叫んだり、楽しそうに大

活躍です。それは、遠く富士山に見守られての保育です。

園の案内パンフレットの呼びかけには：

「喜びの前にはいろいろな壁があるかも知れません

それは親も同じです。

一人で迷う必要はありません。

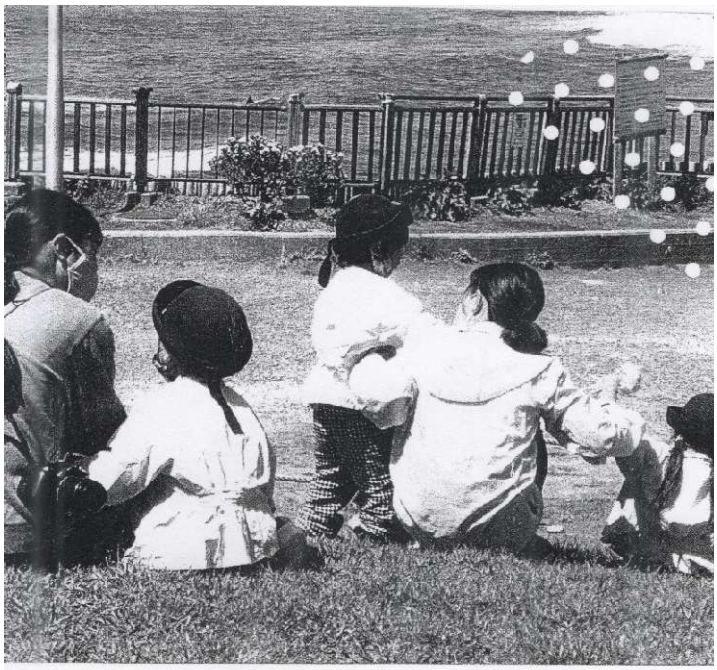
一緒に迷い、悩む友達（仲間）がいることで

たくさんの可能性が拡がり

『センス・オブ・ワンダー』が増えるのです。

そのきかっけの扉を一緒に開いてみませんか？」

平日、及び長期休暇中の預かり保育の実施、年間行事が毎月あり、その他にお誕生日会がある。父母の会「若草会」もあり、「聖路加だより」を発行している。



稲村ケ崎公園で海を眺めて一休み